

特30-876



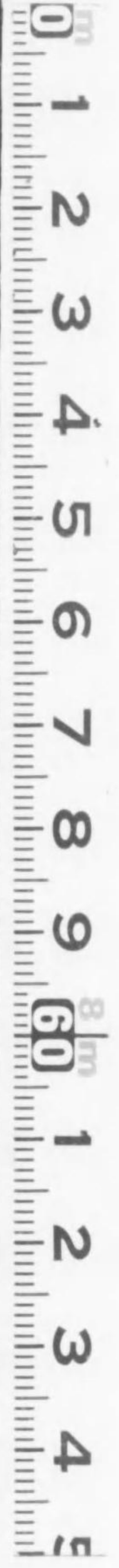
1200800176684

52
170

東京工業學校一覽

從明治廿五年
至明治廿六年

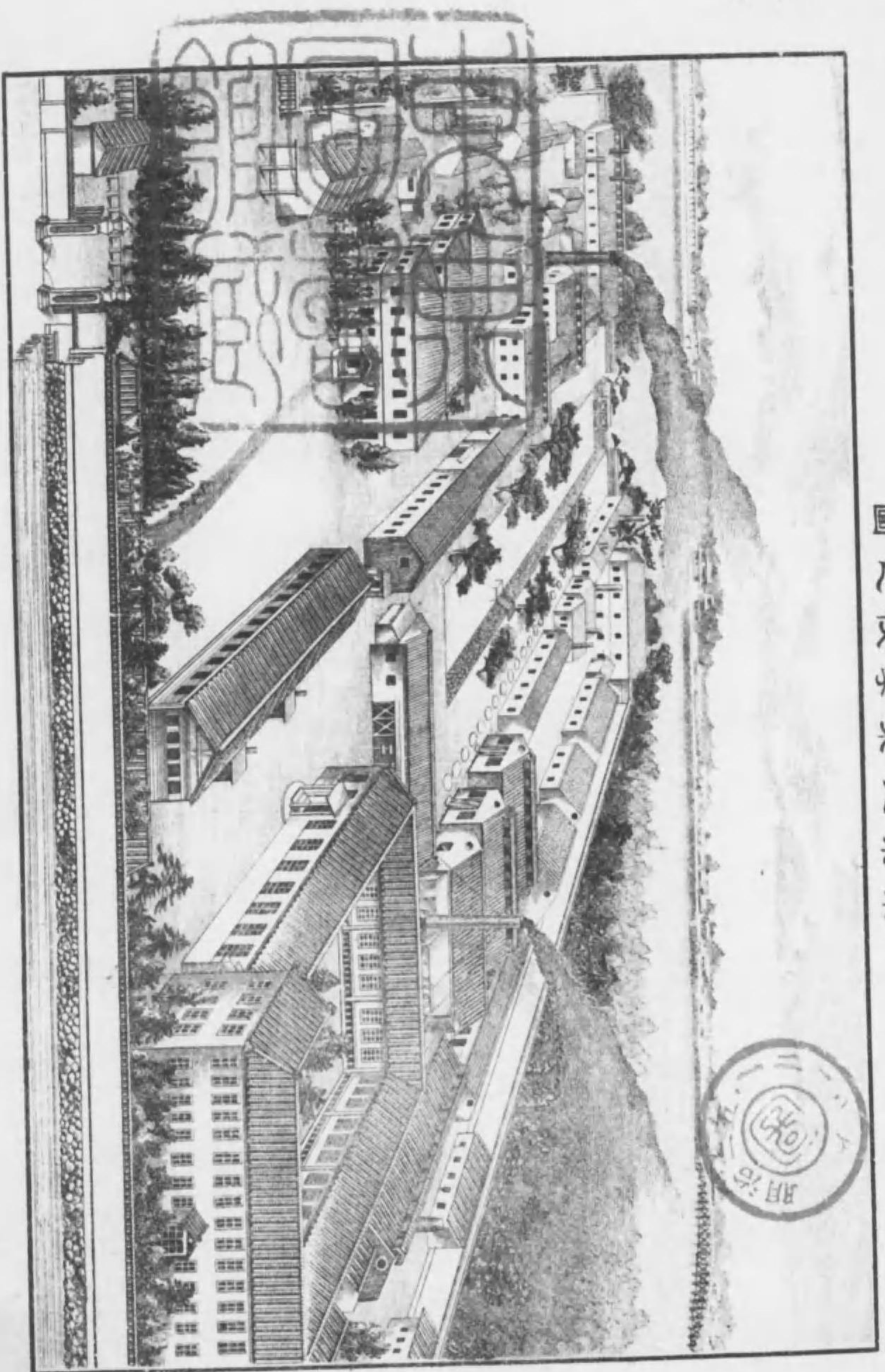
東京工業學校



始



特30
876



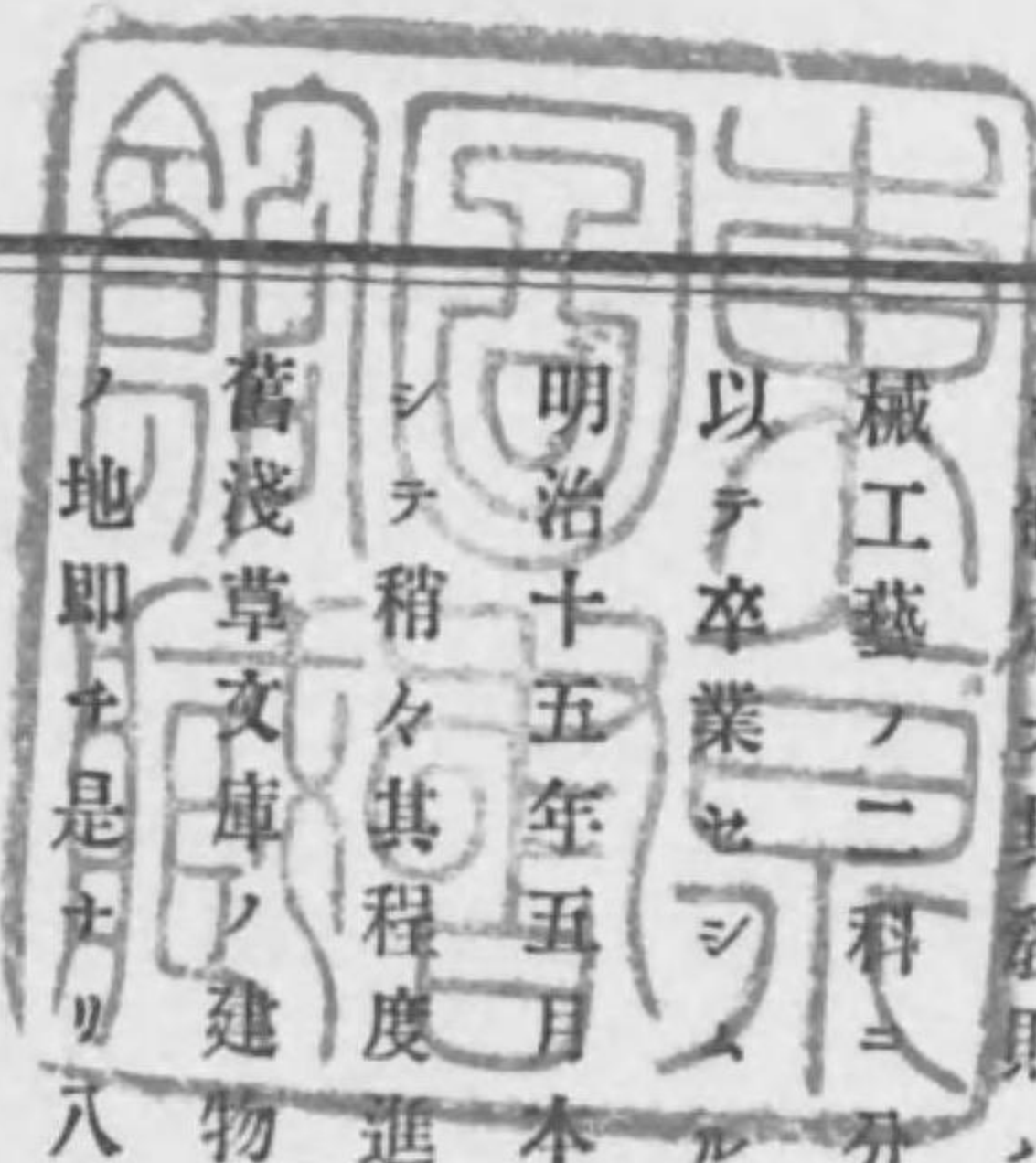
東京大學之圖

Faint, illegible text or markings on the right page, possibly bleed-through from the reverse side of the paper.

東京工業學校一覽 從明治廿五年至明治廿六年

沿革略

明治十四年五月文部省創メテ東京職工學校ヲ東京ニ興ス蓋シ其目的
職工學校ノ師範若クハ職工長製造所長タルヘキ者ヲ養成スルニアリ
テ之ニ必須ナル諸般ノ工藝等ヲ教授スル所トス八月文部省本校規則
ヲ制定ス其教則ハ學科ヲ分テ豫科及ヒ本科トシ又本科ヲ化學工藝機
械工藝ノ二科ニ分テ其課程豫科ハ一年本科ハ二年半通シテ三年半ヲ
以テ卒業セシムルモノトス



明治十五年五月本科ノ修業年限ヲ改メテ三年トス又學科課程ヲ增損
シテ稍々其程度進ム六月文部省淺草藏前片町二十九番地ノ地所及ヒ
舊淺草文庫ノ建物ヲ本校ニ交付シ茲ニ始メテ校舍ヲ經營ス本校現在
ノ地即チ是也八月月初メテ生徒ヲ募集シ授業ヲ始ム

沿革略

經始スル所ノ木型室及ヒ機關室等ノ外部ノ建築竣功ス
 明治十七年一月新築工場内部ノ裝置全ク整理ス是ニ於テ機械工藝科
 中木工ノ實驗事業ヲ始ム九月專攻科ヲ置キ卒業生ニシテ所修ノ學科
 ナ研究セント欲スルモノハ尙ホ一年間修學ヲ許ス
 明治十八年四月化學工藝科ノ實驗場即チ染工場、陶器、玻璃工場、製品場
 及機械工藝科實驗場ノ内鍛冶室、鑄造室、金屬仕上室等ノ諸建築工ヲ竣
 ～逐次實驗事業ヲ始ム
 明治十九年四月二十九日本校ヲ帝國大學ニ屬セシム六月本校規程ヲ
 定メ本校ノ事業ニ關スル方法ヲ諮詢スル爲メ委員四名ヲ置ク八月教
 則ヲ釐革シ豫科ヲ廢シテ本科ヲ正科トシ別ニ速成科ヲ置キ其課程ヲ
 二ケ年トシ共ニ職工長工場長タルヘキ者ヲ養成スルヲ以テ其教旨ト
 ナス其他學科課程等更革スル所アリ
 明治二十年四月是ヨリ先キ農商務省陶器試驗ノ事業ヲ本校ニ囑託ス

此ニ至リテ其赤坂葵町ノ陶器試驗所建物并ニ工具等ヲ本校ニ移ス二十
 月四日勅令第五十一號ヲ以テ復ヒ本校ヲ文部省ノ直轄ト爲ス
 明治二十一年五月文部省本校委員規程ヲ定メ本校重要ノ事件ニ關シ
 之ヲ諮詢スルクメ委員五名ヲ置ク八月本校規則ヲ釐革シ教旨ヲ擴充
 シテ工藝教員又ハ工藝技師職工長工場長タルヘキモノヲ養成スル所
 ト爲シ且速成科ヲ廢シテ新ニ撰科ヲ置ク其他學科ノ程度等更革スル
 所アリ

明治二十二年五月製圖場及工場監督室新築成ル七月規則中課目ノ順
 序授業時間等ニ改正ヲ加ヘ及ヒ學期試業ヲ廢ス
 明治二十三年一月廿一日高等商業學校附屬商工徒弟講習所ヲ職工徒
 弟講習所ト改稱シ本校ニ屬セシム三月廿四日勅令第四十三號ヲ以テ
 本校名稱ヲ改メ東京工業學校ト爲ス三月廿七日電氣工業科設置ノ爲
 メ先ツ該科ニ要スル器械購入費交付ノ訓令アリ五月三十日文部省本

校委員規程ヲ改正シ委員ヲ商議委員ト改ム七月廿二日本校規則ヲ改正シ教旨ヲ改メテ職工長又ハ工業教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス是レ從來教旨中工藝技師云々ノ文字アルヲ以テ生徒中往々其字句ニ惑ヒ徒ラニ志望高遠ニ驚スルノ弊アルヲ以テ之カ矯正ヲ圖ルニ外ナラス又化學工藝部中從來ノ染工科へ機械ヲ加へ染職工科トシ製品料ヲ改メテ應用化學科トナシ又機械工藝部中へ電氣工業科ヲ新設シ其他各條章ニ於テ釐革スル事ナカラス但電氣工業科ハ創設ノ學科ニシテ設備未タ全ク了セサルヲ以テ實施スルニ至ラスト雖モ化學機械兩工藝部學科中ニ於テ既ニ其梗概ヲ修メシムルコトセリ八月事務所并生徒控所新築落成ス九月一日電氣工場新築工事ニ着手ス十月是ヨリ先キ技術者ヲ實業地方ヨリ招キ計畫スル所ノ機械器械据付工事竣功ス十月十四日勅令第二百三十三號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制ヲ改正ス

明治廿四年三月電氣工場新築落成ス七月二十四日勅令第三百三十七號ヲ以テ文部省直轄諸學校官制ヲ改正ス全日勅令第四百一十一號ヲ以テ文部省直轄諸學校教官ノ人員ヲ定ム廿四年十二月廿六日商議委員會ヲ改正セラル

廿五年一月陶器畫工場新築落成ス三月陶器窯場新築落成ス六月二日本校所在地及建物政府ノ交付トシテ本校資金ニ編入セラル

東京工業學校官制及教官人員并商議委員會規程ハ左ノ如シ

勅令第三百三十七號(明治廿四年七月廿四日發布)

文部省直轄諸學校官制拔抄

東京工業學校

第二十九條 東京工業學校ハ職工長又ハ工業科ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス

第三十條 東京工業學校ニ附屬職工徒弟學校ヲ置ク

附屬職工徒弟學校ハ主トシテ木工若クハ金工ヲ業トスル者ノ子弟ニ實業ヲ授ケ適良ノ職工ヲ養成スル所トス

第三十一條 東京工業學校ニ舍監ヲ置カス

第三十二條 東京工業學校ニ技手ヲ置ク判任トス

技手ハ上官ノ命ヲ承ケ學科ニ關スル技術ニ從事ス又特ニ授業ヲ助ケシムルコトアルヘシ

第三十三條 文部大臣ハ教官ノ中ヨリ附屬職工徒弟學校主事ヲ命シ

其事務ヲ掌ラシム

第三十四條 書記ハ六人技手ハ十人ヲ以テ定員トス

勅令第四百一十一號(明治廿四年七月二十四日發布)

明治二十四年勅令第三百三十七號文部省直轄諸學校官制第一條ニ依リ文部省直轄諸學校教官ノ人員ヲ定ムルコト左ノ如シ但兼官ハ此限ニアラズ

東京工業學校ノ分拔抄

教授 十八人

助教授 十三人

東京工業學校商議委員會規程(明治廿四年十二月改正)

第一條 文部省直轄諸學校官制第七條ニ依リ東京工業學校ニ商議委員會ヲ置ク

第二條 商議委員ハ左ノ人員ヲ以テ之ニ充ツ

文部省又ハ其所屬高等官 貳名

農商務省高等官 貳名

商工業ノ經歷アル者 三名以上

第三條 商議委員會ハ學科課程重要ノ諸規則其他學校長ニ於テ必要ト認ムル事項ヲ審議スルモノトス

第四條 商議委員會ハ文部大臣ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ

教官人員 商議委員規程

第五條 商議委員會ノ會議ハ學校長之ヲ開キ其議案ヲ提出スル者トス
但商議委員ノ意見アルトキハ之ヲ議案トナスコトヲ得

第六條 商議委員會ノ議事ニ關スル規程ハ委員會ニ於テ之ヲ議定ス
ルコトヲ得

第七條 商議委員會ノ決議ハ學校長ヨリ文部大臣ニ報告スヘシ

東京工業學校規則

第一章 總則

第一條 本校ハ主トシテ將來職工長又ハ工業教員タルヘキ者ヲ養成
スル所トス

第二條 本校ノ教科ヲ分チテ化學工藝部、機械工藝部ノ二部トシ更ニ
化學工藝部中染織工科、陶器玻璃工科、應用化學科ノ三科ヲ置キ機械
工藝部中機械科、電氣工業科ノ二科ヲ置ク

第三條 本校生徒修業ノ年限ハ三ケ年トス

第四條 生徒卒業ノ後尙一ケ年以上現業練習トシテ本校ノ監督ヲ受
ケ製造所又ハ實業者ニ就キ職工ノ業ヲ操ラシムルモノトス

但本文現業練習ニ從事セントスルモ製造所又ハ實業者ニ於テ使
用スルモノナキトキハ學校長ノ承認ヲ經テ一時他ノ業務ニ從事
スルコトヲ得

第五條 生徒學力優等品行善良ナルモノハ卒業ノ後其志願ニ依リ現業練習ニ代フルニ專攻科生トシテ本校工場ニ於テ尙其學業ヲ研究セシムルコトアルベシ

第六條 道廳府縣立尋常師範學校卒業生ニシテ道廳長官府縣知事ニ於テ將來尋常師範學校手工科教員ヲラシムルノ目的ヲ以テ其ノ推選ニ係ルモノハ機械工藝部特別生トシテ入學ヲ許可ス

但本文ノ特別生ニ限リ第四條ニ掲載セル現業練習ヲ要セス修業年限モ亦時宜ニ依リ之ヲ短縮スルコトアルヘシ

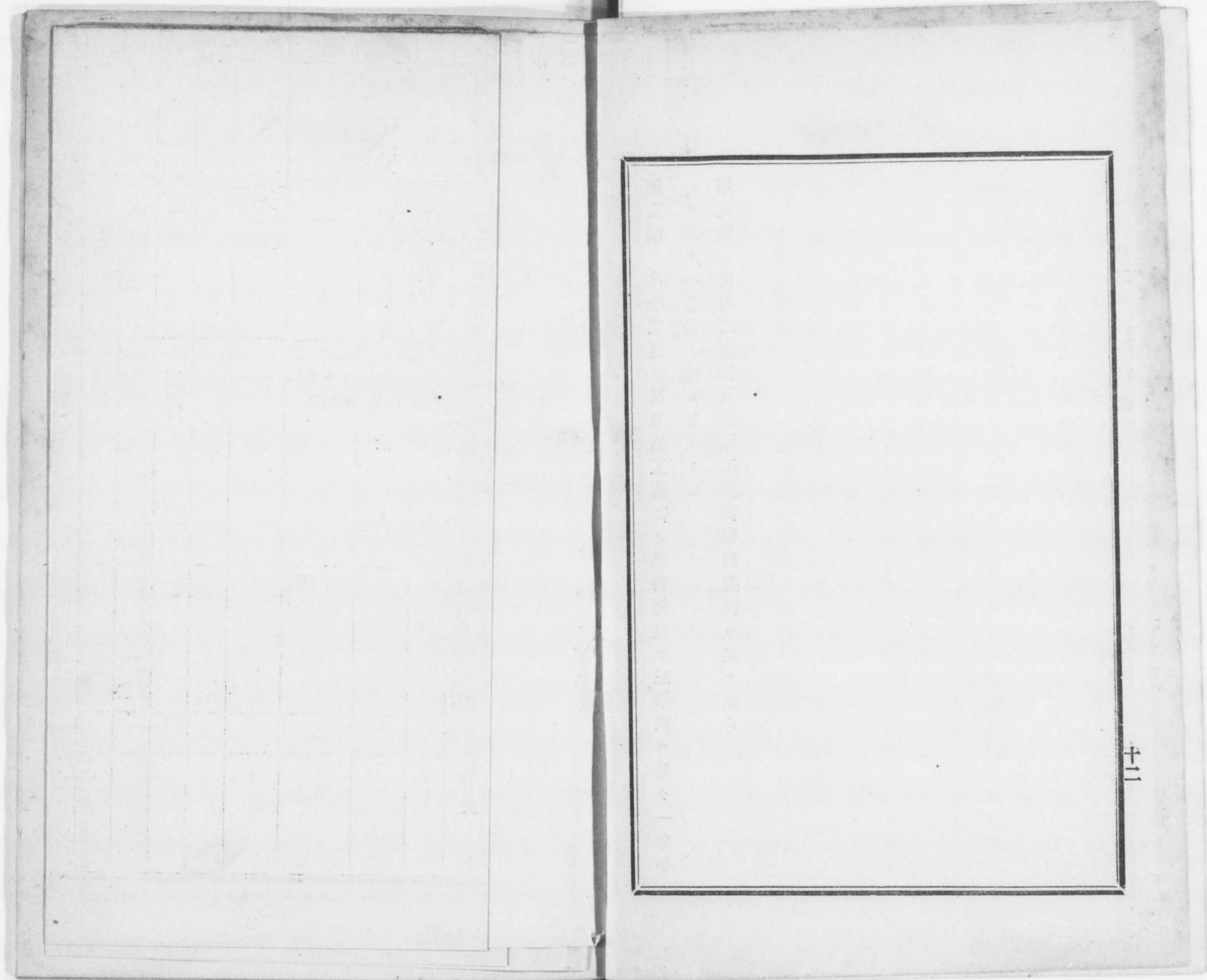
第七條 工業者若クハ其子弟實業ニ従事スルコト滿一ケ年以上ニシテ化學工藝部若クハ機械工藝部專修ノ學科中其業務ニ必要ナル一課目若クハ數課目ヲ撰修セント欲スルモノアルトキハ撰科生トシテ二ケ年以内從學ヲ許可スルコトアルヘシ

第一章 學科課程

第八條 化學工藝部及機械工藝部ノ學科課程ヲ三學級ニ分チ一學年

ヲ以テ一學級ヲ終ルモノトス

第九條 化學工藝部及機械工藝部學科課程ハ左ノ如シ



化學工藝部學科課程

課目	第一學期		第二學期		第一學期		第二學期	
	時間	週	時間	週	時間	週	時間	週
數學	四	代平面幾何 平面三角初步	四	全上				
物理學	五		四					
化學	五	無機化學 附物學	三	有機化學				
一般應用化學								
應用機械學								
染色法及配色法					三		三	
機械法及意匠論					二		二	
陶磁器、玻璃、セメント 煉瓦、漆灰等ノ製造法					三		三	
特別應用化學					二		二	
電鑄及電鍍法					一		一	
定性分析					二		二	
定量分析					一〇、五 三〇、五 三三、五		一九、五 二〇、五 二二、五	
工業分析								
圖畫	三	自在書 用器書	四	染、陶 陶、陶 全上	四	染、陶 陶、陶 全上	四	染、陶 陶、陶 全上
機械製圖			五	染、陶 (應)	五	染、陶 (應)	五	染、陶 (應)
實修	二、五	(染)機械練習 (陶)陶磁器製 造練習 (應)酸類鹽類 等ノ精製	九	(染)機械練習	九	(染)機械練習	九	(染)機械練習
工場建築法								
英語	二		二		二		二	
簿記								
體操	三	兵式	三	全上	三	全上	三	全上
每週時間合計	四一、五		四一、五		四一、五		四一、五	

備考 表中(染)ハ染織工科(陶)ハ陶器玻璃工科(應)ハ應用化學科專修ノ者ヘ特ニ課スル

藝部學科課程

第一學期 第二學期 第一學期 第二學期 第一學期 第二學期

時間 時間 時間 時間 時間 時間

面幾何數
而三角初步

有機化學
附錄
有機化學

三
有
機
化
學

二
三

二
二
三

二
二
三

二
二
三

一
二

一
二
三

二
三
三

三
三
三

二
三
三

一
二
三

二
二
二

一
二
二

二
二
二

三
三
三

二
二
二

二
三
三

二
三
三

一
一
一

一
一
一

表中(染)ハ染織工科(陶)ハ陶器玻璃工科(應)ハ應用化學科專修ノ者ヘ特ニ課スル學科ヲ示ス

Main table grid with columns for course numbers, semester, and credit hours.

機械工藝部學科課程

課目	第一年		第二年		每週時間合計
	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	
數學	代數 平面幾何 三角初步	四全 上	四 前年ノ續キ 求積術 曲線法大意	四全 上	二
物理學	五	四			二
無機化學	二	二			二
工具用法	三	三	二	二	二
應用重學			四 重學ノ原則 機工學、機力 學、物質強弱	四全 上	二
電氣學特別講義			二	二	二
製造用諸機械					三
發動機					五
圖書	八 自在 器書	八全 上			五
機械製圖			五	五	五
實修	一五五 原範製造 鑄造	一六五全 上	二〇五 銅工、鍛工 工場製圖 仕上、鍛工	三六五全 上	二九五 電 汽蒸
工場建築法					一
英語	二	二	二	二	一
簿記					一普
體操	二兵 式	二全 上	二全 上	二全 上	二 消兵

備考 第三年ノ實修ニ於テハ左ノ三項中一頂乃至三項ヲ專修セシム
 (一) 原範製造、鑄造 (二) 鍛工、仕上、鍛工 (三) 製圖

械工藝部學科課程

時	週	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期	第一學期	第二學期
代 平 平	代 面 面	幾 何 數	四 全	平 面 三 角 積 大 意	平 面 三 角 積 大 意	電 氣 工 場	電 氣 工 場
三	二	五	三	二	四	五	三
用 自 器 在 畫	八 全	上	五	四 全	上	五	三
原 範 製 造	一 六 五 全	上	五	三 六 五 全	上	三 六 五 全	上
鑄 造	二 全	上	二 全	二 全	上	二 全	上
二 兵 式	二 全	上	二 全	二 全	上	二 全	上
四一、五	四一、五	四一、五	四一、五	四一、五	四一、五	四一、五	四一、五

第三年ノ實修ニ於テハ左ノ三項中一項乃至三項ヲ專修セシム
 (一) 原範製造、鑄造 (二) 鍛工、仕上、鍛工 (三) 製圖

第十條 生徒ヲシテ學術應用ノ道ヲ練習セシムル爲メ其課業ノ餘暇
 又ハ夏期休業中教員其學力ヲ計リ既ニ學修セシ所ニ依リ本邦工業
 上必須ナル事項ヲ講究セシメ又ハ機械標本等ヲ製造セシムルコト
 アルヘシ

但本文ノ成績ハ教員ニ於テ評點ヲ附シ之ヲ學年評點數ニ勘合スル
 モノトス

第十一條 機械工藝部特別生ノ學科課程ハ概テ機械工藝部一般ノ學
 科課程ニ異ナラスト雖モ工場實修ノ方法ニ於テ多少之レニ斟酌ヲ
 加ヘ傍ラ附屬職工徒弟學校ニ就キ木工及金工ヲ實修セシム又手工
 科授業法ヲ練習セシムル爲メ初級ノ徒弟ニ向ヒテ教授ヲ爲サシム
 ルコトアルヘシ

第二章 試業及學業證書規程

第十二條 試業ヲ分テ通常試業及學年試業トス

第十三條 通常試業ハ一學期中二回以上トシ隨時其當日マテニ履修セシ諸課目ニ就キ試業ヲ行フ

但本文試業ノ回数ハ每學年ノ初各課目ニ就キ豫メ之ヲ定メ置クモノトス

第十四條 學年試業ハ各學年末ヲ期トシ其學年中ニ履修セシ諸課目ニ就キ試業ヲ行フ其中途ニシテ履修シ了ハリタル課目ハ其了ハリタル際試業ヲ爲スコトアルヘシ

但實修ノ學年試業ハ便宜之ヲ欠クコトヲ得

第十五條 每學年ノ終ニ於テ各學科生徒實修ノ成績若クハ實修報告書ヲ檢定シテ之ニ評點ヲ附スルモノトス

第十六條 教員ノ見込ニ因リ臨時宿題ヲ發シ日ヲ期シテ答案ヲ出サシメ之ニ評點ヲ附シテ通常試業評點ニ算入スルコトアルヘシ又其期日ニ及テ故ナク答案ヲ出サ、ルモノハ其次第ニ因リ通常試業評

點ヲ減スルモノトス

第十七條 最後ノ學年末ニ於テハ實修ニ係ラサル學科ハ第十四條ニ依リ試業ヲ行ヒ又實修ニ關シテハ第十五條ニ依リ實修檢定ヲ行フノ外尙ホ從來履修スル所ニ就キ試業ヲ行フモノトス

第十八條 凡評點ハ各科一百ヲ以テ最高點トス

第十九條 一課目ノ學年評點數ハ通常試業評點平均數ノ二倍ニ學年試業評點數ヲ加ヘ其和ヲ三除シテ得ルモノトス

但一課目ノ授業一學期ニ了ハルトキハ其了ハリタルトキニ施行スル試業評點數ヲ以テ學年評點ト見做シ本條ニ準シテ計算スルモノトス

第二十條 諸課目ノ學年評點平均數ハ各課目ノ學年評點ヲ合算シ課目ノ數ヲ以テ其和ヲ除シ之ヲ得ルモノトス

第二十一條 前條諸課目ノ評點平均數及實修檢定評點共ニ五十點以

上ヲ得ルニ非サレハ進級セシメサルモノトス

但二年間同級ニ止マル者ノ進級ハ諸課目評點平均數及實修檢定評點共ニ六十點以上ヲ得ルヲ要ス

第二十二條 前條諸課目ノ評點平均數及實修檢定評點共ニ五十點ニ

滿ルモ他ノ一課目ノ評點三十點ニ滿タス若クハ二課目以上四十點

ニ滿タサルトキハ進級セシメサルモノトス

但各課目ノ學年評點數及實修檢定評點數トモ悉ク三十點未滿ナルトキハ退學ヲ命ス

第二十三條 進級合格ノ點數ヲ得サルモノハ何等ノ事故ニ拘ハラヌ

再試業ヲ受ルヲ得ス都テ次學年ノ第一學期ヨリ原級ノ全課目ヲ再修セシム

第二十四條 事故ノ何タルニ拘ハラヌ通常試業ニ缺席スルモノハ零點トス

第二十五條 工場實修ニ缺席多キモノハ通常試業評點及實修檢定評點若干數ヲ減ス

第二十六條 凡試業評點數ハ試業ノ都度實修檢定評點數ハ檢定ノ都度各教員ヨリ之ヲ校長ニ申報スルモノトス

第二十七條 學年ノ終ニハ學業ノ優劣ニ隨テ列次セル各科生徒ノ級表へ各課目ノ學年評點數及ヒ諸科目評點平均數ヲ附載シテ之ヲ揭示ス

第二十八條 病氣ノタメ學年試業ニ缺席スルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添へ保証人連署ヲ以テ當日午前八時マテニ届出ツヘシ一週日以内ニ出校スルモノニ限り其ノ事實ヲ調査シ試業ヲ受ケシムルコトアルヘシ

但他ノ事故ニヨリ欠席スルモノアルトキハ止ムヲ得スト認ムルモノニ限り本文ニ準ス

第二十九條 生徒第三年ノ終ニ於テ試業ノ成績進級ノ格ニ合フモノハ卒業證書ヲ與フ

第三十條 前條試業ノ成績優等ナルモノニハ特ニ優等卒業證書ヲ與フ

第三十一條 第四條ニ依リ現業練習ヲ完了スルトキハ本校ハ其使用セラレタル製造所又ハ實業者ノ證明ニ基キ更ニ其成績ヲ考查シ實業ニ練熟シ行狀善良ナリシモノニハ職工長合格證書ヲ與フ

第三十二條 専攻科生ハ試業ヲ行ハス修學年ノ終ニ於テ實修ノ成績ヲ檢定シ其善良ナルモノニハ退學ノ時専攻ニ係ル修業證書ヲ與フ

第三十三條 撰科生豫期セル程度ノ修學ヲ了ハリタルトキハ之ヲ試験シ其成績善良ナルモノニハ其課目ノ修業證書ヲ與フ
但修學中ニ在テモ便宜試業ヲ行フモノトス

第四章 學年學期休業

第三十四條 學年ハ九月十一日ニ始リ七月十日ニ終ル

第三十五條 學年ヲ分テ二學期トシ第一學期ハ九月十一日ニ始リ二月十日ニ終ル第二學期ハ二月十八日ニ始リ七月十日ニ終ル

第三十六條 冬期休業ハ十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル二週間トシ春期休業ハ二月十一日ヨリ同十七日ニ至ル一週間トシ夏期休業ハ七月十一日ヨリ九月十日ニ至ル六十二日間トス

但工場ハ通常休暇日又ハ特ニ閉場スル時ヲ除クノ外各期休業中ト雖モ之ヲ開クニ依リ志願ノモノハ工場實修ヲ許スヘシ其出席ノ度數執業ノ成績等ニヨリ若干ノ點數ヲ附シ之ヲ其通常試業評點數ニ加算スヘシ

第三十七條 授業ハ毎日午前第八時ニ始メ午後第四時ニ終ル

但土曜日ハ午前第八時ニ始メ正午ニ終ル

第三十八條 年中休業日左ノ如シ

第四章 學年學期休業

- 日曜日
- 秋季皇靈祭 十月十七日
- 神嘗祭 十一月三日
- 天長節 十一月廿三日
- 新嘗祭 一月三十日
- 孝明天皇祭 二月十一日
- 紀元節 四月三日
- 春季皇靈祭
- 神武天皇祭

第五章 入退學規程

第三十九條 入學ノ期ハ每學年ノ始メ一回トス
 第四十條 入學セントスルモノハ左ノ各項ニ適合シ且學科試業ニ合格スルモノトス

一年齡滿十七年以上滿二十五年以下
 一品行端正ナル者
 一身體強健ナル者
 一工業者ノ子弟又ハ將來工業ニ從事セントスル志望ノ鞏固ナル者及第六條ノ資格ヲ有スル者

第四十一條 入學試業ノ學科目左ノ如シ

- 一 讀書 漢字交リ文
- 一 作文 漢字交リ文
- 一 算術 四則、分數、小數、比例、百分算、開平、開立、求積
- 一 代數 諸定義、符號、四則、最大公約數、最少公倍數、分數、比例、一元一次方程式、多元一次方程式及其問題、負數ノ解釋、不定、不能ノ場
- 一 平面幾何 諸定義、一點ニ於ル角、平行直線、三角形、平行四邊形、軌跡、平面積、
- 一 圖畫 自在畫(鉛筆畫若クハ毛筆畫)器物又ハ草花等ノ臨本模寫(用器畫、平面幾何畫法及尋常對象法(圓筒、圓錐ノ複傾斜マテ)

第五章 入退學規程

一物理 大意

一無機化學 大意

一英語解釋 凡ユニオン第四讀本ノ程度ニ依ル

第四十二條 第四十條第四項ノ前段ニ適合スルモノヲ汎ク全國ニ求ムルノ主旨ヲ以テ生徒募集ヲ道廳府縣廳ニ依托シ別ニ定ムル所ノ募集手續ニ依リ各其便宜ノ地ニ於テ入學試業ヲ施行スルモノトス但東京府下ニ限リ募集及入學試業ハ本校ニ於テ施行スヘシ

第四十三條 道廳府縣立尋常中學校ヲ卒業シ第四十條各項ニ適合スルモノニシテ卒業試業ノ際(別ニ卒業試業ヲ施サ、ル學校ニ於テハ最終ノ學年試業ノ際)左ノ成績ヲ得タルモノハ道廳長官府縣知事ノ證明ニ依リ特ニ試業ヲ須サス入學ヲ許可スヘシ

但私立尋常中學校ニシテ文部大臣ニ於テ舊徵兵令第十一條第十二條第十八條第十九條第二十條第三項官立府縣立學校同等ノ學

校ト認定シタル者及現行徵兵令第十一條ニ依リ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認めタル者ノ卒業生ハ本文ニ準シ高等中學校豫科ノ卒業生ハ該學校長ノ證明ニ依ルノ外本文ニ準ス

一算術 定點三分ノ二以上

一代數 同

一幾何 同

一圖書 同

一物理 同

一化學 同

第四十四條 第四十二條入學試業ニ合格セル者并第四十三條ニ依リ入學ヲ望ム者募集定員ニ超過スルトキハ先ツ工業者ノ子弟ヨリ入學セシムルモノトス

第四十五條 第六條ニ依リ道廳長官府縣知事ノ推選スヘキ尋常師範

學校卒業生ハ第四十三條學科ノ成績并手工科ニ於テ定點三分ノ二以上ヲ得タルモノニ限ル此資格アルモノハ特ニ入學試業ヲ須井ス但本文ニ依リ入學セシムルモノハ學校長ニ於テ其人員ヲ定メ豫メ之ヲ道廳長官府縣知事ニ通知スヘシ

第四十六條 入學試業ヲ受ケント欲スルモノハ試驗料トシテ金貳圓ヲ本校收入官吏ニ納ムヘシ

但試驗料ヲ納付シタル後自己ノ都合ニヨリ入學願ヲ取消スモ試驗料ハ返付セス

第四十七條 第六條第四十三條ニ依リ入學ヲ願フモノハ試驗料ヲ徴収セス

第四十八條 生徒ハ左ニ掲クル學科ノ内ニ就テ豫メ其專修スヘキ科目ヲ定ムヘシ

化學工藝部

染織工科

陶器玻璃工科

應用化學科

機械工藝部

機械科

電氣工業科

第四十九條 入學試業ヲ受ケント欲スル者ハ入學願書(書式甲號)ニ履歷書(書式丙號)及試驗料ヲ添へ道廳府縣廳(東京府下ハ直ニ本校ヘ)ニ差出スヘシ又第四十三條ニ依リ入學セント欲スルモノハ入學願書(書式乙號)ニ履歷書(書式丙號)體格檢査書(書式丁號)并第四十三條ニ記スル學科ノ卒業試驗點數表ヲ添へ道廳長官府縣知事ノ證明書ト共ニ本校ヘ差出スヘシ

第五十條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ其當日ヨリ一週日以内ニ保證人連署ノ誓書(書式戊號)及保證書(書式己號)ヲ保證人同伴ニテ持參スヘシ尤父兄

若クハ最近親族遠隔ノ地ニ在ルモノハ願ニ依リ保證書差出日限ヲ延期スルコトアルヘシ

但父兄若クハ最近親族ヲ以テ在學保證人トナストキハ保證書ハ差出スニ及ハス

第五十一條 保證人ハ東京市及北豊島南足立南葛飾三郡内ノ公民ニシテ生徒ノ身分ニ關シ一切ノ事ヲ引受クルニ足り且其身上ニ關涉シ得ヘキ關係アル者ニ限ル

但本文生徒ノ身上ニ關涉シ得ヘキ關係アル者ナキ場合ニ於テハ之レニ代ルベキ相當ノ者ヲ撰ヒ其交際ニ於ケル關係ノ來歴ヲ證明シ學校長ノ認可ヲ得テ之ヲ定ムルモノトス

第五十二條 入學ヲ許可セラレタル者ト雖モ第五十條第五十一條ノ成規ニ違フ者ハ何如ナル事情アルモ入學ヲ許可スルコトナシ

第五十三條 保證人宿所ヲ轉シ或ハ改印スル等ノ事アレハ一週日以

内ニ必ス届出ツヘク又府外ニ旅行スルトキハ相當ノ代理人ヲ立テ置クヘシ

第五十四條 保證人死去若クハ他府縣へ轉住スル等或ハ旅行三ヶ月以上ニ涉ルトキハ直ニ第五十一條ニ合格スル保證人ヲ以テ之ニ代ヘ更ニ誓書ヲ改ムヘシ

第五十五條 生徒ハ自費ヲ以テ本校制定ノ帽被服ヲ調製着用スヘシ但新入學生徒ハ其入學ノ日ヨリ一ヶ月以内ニ本文ノ帽被服ヲ調製スヘシ

第五十六條 生徒疾病或ハ不得止事故アリテ一日缺課シ又ハ半途退出スルトキハ三日以内ニ必ス保證人ヨリ其旨届出ツヘシ若シ缺席二日以上ニ涉ルトキハ其事由及日數ヲ詳記シ三日以内ニ必ス保證人ヨリ届出ツヘシ尤病氣ニテ引續キ一週日以上缺席スルトキハ醫證ヲ添フヘシ

但本文ノ事故ニ依リ二日以上旅行セントスル者ハ其前保証人連署ヲ以テ願出ツヘシ

第五十七條 生徒學業不進若クハ品行不良ニシテ成業ノ目的ナシト認ムルモノ又ハ工場實修ヲ嫌厭スルノ形跡アルモノハ退學ヲ命スヘシ

第五十八條 本校卒業生ハ職業及就職ノ場所等變更ノ節ハ直ニ本校ヘ届出ツヘシ

第六章 授業料規程

第五十九條 生徒(專攻科生共)授業料ハ一學年金十五圓ト定メ之ヲ二回ニ分納セシム

但第六條ノ機械工藝部特別生ハ授業料ヲ免除ス

第六十條 前條授業料ハ每學期ノ始メ一週日間内ニ其半年即一學期分ヲ本校収入官吏ニ納付スヘシ

第六十一條 生徒(專攻科生共)疾病或ハ自己ノ都合ニ依リ數月間休業シ又ハ退學スルモ既納ノ授業料ハ之ヲ返付セス

第六十二條 生徒學力優等品行善良ニシテ他生徒ノ模範タルヘキモノハ特待生ト爲シ一學期若クハ數學期間ノ授業料ヲ免除スルコトアルヘシ

第六十三條 撰科生ノ授業料ハ一ヶ月金壹圓トス毎月五日迄ニ本校収入官吏ニ納付スヘシ
但八月分ハ之ヲ徴収セス

第六十四條 專攻科生本校ノ許可ヲ得テ校外製造所等ニ於テ實修スルヲ滿一ヶ月ニ及フトキハ其月ニ相當スル授業料ハ之ヲ徴収セサルモノトス一ヶ月以上之ニ準ス

第六十五條 授業料ヲ納付期限内ニ納メサルモノアルトキハ未納中停學ヲ命シ之ヲ保証人ニ通知スヘシ尙其未納二週日ニ至ルモノハ

退學ヲ命ス

第七章 附則

第六十六條 第二條ニ掲載スル電氣工業科ノ學科課程及其實施期限ハ追テ之ヲ定ム

第六十七條 本則制定前入學シタル生徒ハ本則第四條ニ掲載スル現業練習ニ從事セシムルノ限ニアラス

但本人ノ志望ヲ以テ現業練習ニ從事スルトキハ第三十一條ニ依リ職工長合格證書ヲ與フヘシ

第六十八條 本則制定前入學シタル生徒ノ授業料ハ總テ舊規定ノ金額ヲ以テ徴収スヘシ

甲號書式(用紙美濃紙)

入學願書

私儀御校へ入學某科修業(撰科ナレハ撰修)仕度志願ニ候條御試驗相成度別紙履歷書并ニ試驗料相添此段相願候也

府下宿所

本籍族(戸主ニ非サレハ誰子弟)

年 月 日

姓 名 印

何年何月生

東京工業學校長某殿

乙號書式(用紙美濃紙)

入學願書

私儀御校へ入學某科修業仕度志願ニ候處道廳若クハ某府縣常尋中學校ヲ卒業シ其學業成績別紙道廳長官若クハ某府縣知事證明書ノ通ニ有之候間試業ヲ須キス入學御許可相成度此段相願候也

年月日

本籍族(戸主ニ非サレハ誰子弟)
姓名印
何年何月生

東京工業學校校長某殿

丙號書式(用紙美濃紙)

履歷書

學業

一何年何月ヨリ何年何月マテ何地官公立何學校ニ入り又ハ何某ニ就

キ何學修業其卒業セシ等級及用書何々

賞罰

一年月日何所ニ於テ何賞罰ヲ受クル等

一家業何々(家業ナキ者ハ其趣ヲ記スヘシ)

本籍族(戸主ニ非サレハ誰子弟)

年月日

姓名印

何年何月生

丁號書式(用紙美濃紙)

體格検査書

本籍族(戸主ニ非サレハ誰子弟)

姓名

何年何月生

- 一體格 何々
 - 一身丈 何々
 - 一胸圍 何々
 - 一體重 何々
 - 一視力 何々
 - 一辨色力 何々
 - 一痘 何々
- 右之通相違無之候也

諸書式

公立病院醫(病院ナキ地
方ハ開業醫)

年月日

姓名印

體格検査書記載心得

- 一體格ハ甲乙丙ノ三種ニ區別ス最強壯ノ者ヲ甲トシ無病ニシテ之ニ亞クモノヲ乙トシ病弱ノ徵アルモノヲ丙トス
- 一身丈胸圍ハ曲尺ヲ以テ記ス但胸廓ヲ測定スルニハ上肢ヲ水平ニ開展セシメ次ニ尺帶ヲ取り兩肩胛骨下角左右乳頭ノ直下ヲ周匝シ尋常ノ氣息ヲ爲サシメ胸圍ヲ測リ續テ最強ノ呼吸ヲ爲サシメ其縮張ヲ測ル
- 一體重ハ日本斤量ヲ以テ記ス
- 一視力ノ度ヲ記入スルニハ「スチルレン」氏視力表ノ號數ヲ以テ距離ヲ除シ得タル數(二十號ヲ以テ二十尺ヲ除スレハ一、三十號ヲ以テス)ニテ除スレハ視力三分ノ二以下之ニ做フヲ以テス
- 一辨色力ハ各色ヲ指示シ又ハ各色ヲ指呼セシメ其七色ヲ各別ニ辨識

シ得ルヤ否ヲ檢シ其色ヲ辨セサルモノハ何色ヲ辨セスト記ス

一痘ハ天然痘種痘若クハ未痘ト記ス

戊號書式(用紙美濃紙
一錢證券印紙貼付)

誓書

私儀今般御校へ入學御許可相成候ニ付テハ始終御規則ヲ遵守シ特ニ在學中ハ專心勉勵致シ卒業ノ後ハ御校ニ於テ學習シタル業務ニ從事可致素志ニ候然ル上ハ向後如何様ナル事故出來致シ候共漫リニ右志願變更不致ハ勿論退學等仕間敷候仍テ誓書如此候也

本籍族(戸主ニ非サレハ誰子弟)

姓名印

年月日

何年何月生

宿所東京市何區町(何郡村)番地

前文何某在學中御規則堅ク可爲相守ハ勿論本人ニ係ル一切ノ事件ハ拙者引受可申候萬一本人ニ於テ當初ノ目的變更ノ傾向アルモ拙

諸書式

者ニ於テ務メテ貫徹爲致御校へ對シ證人タルノ義務相缺ケ候様ノ事致間敷候仍テ保證如此候也

但證人ニ關スル御校ノ御規則ハ總テ承認致候

本籍族職業或ハ職務
生徒ニ對スル關係

年 月 日

姓 名 印
何年何月生

宿所東京市何區町(何郡村)番地

東京工業學校長某殿

前書證人何某ハ本區(郡)公民ニ有之候也

年 月 日

何區(郡)役所 印

備考本校ニ於テ書式中保證人ヲ識認シタル節ハ區(郡)役所ノ與書ヲ要セス

己號書式(用紙美濃紙
一錢證券印紙貼付)

保證書

本籍族(戶主ニ非サレハ誰子弟)

姓 名

何年何月生

右ノ者儀今般御校へ入學御許可相成候ニ就テハ始終御規則ヲ遵守シ專心勉勵爲致可申ハ勿論卒業ノ後ハ必ス御校ニ於テ學習シタル業務ニ從事可爲致候然ル上ハ向後如何様ナル事故出來致候共漫リニ右志望變更爲致申間敷候仍テ保證如此候也

本籍族職業或ハ職務

年 月 日

父兄(父兄ナキ生徒
ハ最近親族) 姓 名 印
何年何月生

東京工業學校長某殿

地方生徒募集手續

第一條 本校規則第四十二條ニ據リ募集スヘキ生徒ノ員數并其入學

地方生徒募集手續

セシムヘキ學科種別ハ其年四月本校ヨリ之ヲ各地方廳ニ通知シ且
同時ニ官報及新聞紙ヲ以テ廣告スヘシ

第二條 地方廳ニ於テハ入學願書履歷書試驗料并ニ公私立病院醫員
(病院ナキ地方ハ開業醫)ヲシテ作ラシメタル體格検査書ヲ取纏メ六
月十五日限り之ヲ本校ニ送致スルモノトス

第三條 本校ハ前條志願者ノ員數ニ應シ試驗問題ヲ調製シ之ヲ封緘
シテ試驗ノ日割及時間ヲ記シ地方廳ニ廻送スヘシ

第四條 地方廳ハ便宜ノ場所ニ於テ二名以上ノ委員ヲシテ前條ノ試
驗問題ニ依リ試驗ヲ施行セシムルモノトス

試驗問題ハ受験者ノ前ニ於テ之ヲ開緘スヘシ

第五條 試驗終了シタルトキハ其答稿ヲ封緘シ本校長宛親展トナシ
速ニ發送スヘキモノトス

第六條 本校ニ於テハ各地方ヨリ廻送スル所ノ答稿成績并其他ノ入

學ニ必要ナル條件ヲ審査シ入學ノ許否ヲ定メ地方廳ヲ經テ其旨ヲ
入學志願者ニ通達スヘシ

撰科生募集方法

第一條 撰科生ヲラントスルモノハ左ノ各項ニ適合シ且尋常小學校
ヲ卒業シタルモノ若クハ讀書作文及算術ノ之ニ相當スル學力アル
モノトス

一年齡十七年以上

一品行端正ナル者

一身體強健ナル者

一己ニ一ケ年以上實業ニ從事スルモノニシテ將來工業ニ從事セ
ントスル志望ノ鞏固ナル者

第二條

撰科生ヲラント欲スルモノハ入學願書へ郡市長(東京、京都、大

撰科生募集方法

於テハ)ニ於テ前條第四項ノ證明ヲ受ケ本校ニ差出スヘシ
區長

第三條 尋常小學校ヲ卒業セサルモノニシテ讀書作文及算術ノ學力
之ニ相當スルヤ否ハ郡市長(東京、京都、大坂ノ三)ノ認定ニ依ル

第四條 撰科生ノ入學ヲ望ムモノ募集定員ニ超過スルトキハ其地方
工業ノ實況ニ依リ緩急ヲ圖リテ之ヲ撰拔スルモノトス

入學願書 (用紙美濃紙)

入學願書

私儀御校へ入學某科ニ於テ何々撰修仕度志願ニ候條御許可相成
度別紙郡市區長證明書相添此段相願候也

府下宿所

本籍族(戸主ニ非サレハ誰子弟)

年 月 日

姓 名 印

何年何月生

東京工業學校校長某殿

生徒入學ノ要旨

一本校生徒ハ主トシテ職工長タルヘキ目的ヲ有スルモノナレハ其著
眼スル所徒ラニ高尙ニ走リ實地ノ操業ヲ厭フモノ、如キハ其生徒
タル資格ニ適セザルモノトス

一本校へ入學スルモノハ可成工業者ノ子弟タルヲ要ス蓋シ幼時ヨリ
父兄ノ業ニ親炙シ其實況ヲ目撃シ來リ深ク其印象ヲ腦底ニ刻スル
モノハ成業ノ一要素トナリ一朝一夕此業ニ志スモノ、比ニアラサ
ルヲ以テナリ

一工業者ノ子弟ノ本校生徒ニ適スルコト前項ノ如シト雖モ其他ノ者
ト雖其工業志望鞏固ナルモノニ至テハ亦實ニ本校ノ好シテ待ツ所
ノモノタリ只夫レ朝ニ政事法律ニ志シ夕ニ工業ニ轉スル如ク思想

翻々操守スル所ナキモノハ決シテ本校生徒タルニ適セサルナリ
 一本校ノ目的ハ卒業後主トシテ職工長タルヘキ者ヲ養成スルニ在レ
 ハ入學スルモノハ學術ヲ理會スル能力ヲ具有スルヲ要スルハ勿論
 又工場ヲ管理シ職工ヲ監督スルノ才幹ナカルヘカラス然ルニ世間
 往々工業ヲ修ムルニハ敢テ才幹ヲ要セサルモノト思惟スル輩ナキ
 ニアラスト雖モ是レ謬レルノ甚シキモノト云フヘシ夫ノ稟性不敏
 ノモノニ至テハ成業シ能ハサルコト猶各般ノ學術ニ於ケルト逕庭
 ナキモノト如シ

一學修中資金匱乏ニ因リ中途業ヲ廢スルモノ少ナカラス是等ハ本人
 生涯ノ不利タルノミナラス本校教育ノ勞亦徒爾ニ属セントスルモ
 ノナリ故ニ在學中學資ノ給否ヲ見積リ其目途確立セサルモノハ寧
 ロ初メヨリ入學セサルノ勝レルニ若カス是實ニ父兄タルモノト宜
 シク注意慎慮スヘキモノトス今本校生徒必需ノ學資概算額ヲ舉クレ

ハ左ノ如シ

東京工業學校生徒學資概算表(明治廿四年三月調)

	第一 年	第二 年	第三 年	計
授業料	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	四五、〇〇〇
書籍費	一〇、六五〇	八、〇〇〇 (染、陶 應、機)	二、七五〇 (機)	一八、六五〇 二一、六五〇 二四、四〇〇
製圖、尺道具、 定規、度具	六、二五〇	〇	〇	六、二五〇
筆紙墨費	六、二五〇	三、六〇〇	一、〇〇〇	一〇、八五〇
下宿料	四八、〇〇〇	四八、〇〇〇	四八、〇〇〇	一四四、〇〇〇
制服 (冬服)	五、〇〇〇	四、五〇〇 (夏服)	五、〇〇〇 (冬服)	一四、五〇〇
制帽	六、〇〇〇	〇	六、〇〇〇	一二、〇〇〇
外套	七、〇〇〇	〇	〇	七、〇〇〇
工場服	一、三五〇	〇	一、三五〇	二、七〇〇

生徒入學ノ要旨

脚 袴	靴 代	手 シヤツ、股引、 下、靴、下	諸 雜 費	總 計	一 ヶ 月 平 均
〇、二〇〇	三、五〇〇	二、〇〇〇	六、〇〇〇	一一、八〇〇	九、三二七
〇	三、五〇〇	二、〇〇〇	六、〇〇〇	九、〇六〇 (應、機)	七、五五〇 (應、機)
〇、二〇〇	三、五〇〇	二、〇〇〇	六、〇〇〇	八二、六五〇 (應、機)	六、八八八 (機)
〇、四〇〇	一〇、五〇〇	六、〇〇〇	一八、〇〇〇	二八、五〇五〇 (應、機)	二八、八〇五〇 二九〇、八〇〇

現業練習ノ旨趣

一本校ハ規則ニ明示セル如ク將來主トシテ職工長タルヘキモノヲ養成スル所ナリ職工長タルヘキモノハ其將ニ從事セントスル事業ニ關スル學術技藝ヲ要スルハ勿論亦工場ヲ管理シ職工ヲ統御スルノ才幹ナカルヘカラス故ニ其教育ノ方法ハ專ラ學術技藝ノ駢進ヲ企

圖スルト同時ニ工場ノ經濟ヲ重シテ之ヲ管理シ且職工ノ境遇ヲ察シテ之ヲ統御スルノ道ヲ知ラシムルニ在リ而シテ此道タル事ニ觸レ物ニ接スルノ際ニ於テ之ヲ知得セシムルヲ務ムト雖凡萬般ノ事物ニ遭遇シテ機轉ヲ要スル工場管理ノ如キ或ハ性質同シカラス技藝均シカラサル多數職工ヲ統御スル道ノ如キハ學校教育ヲ以テ容易ニ其目的ヲ達スベカラザルナリ蓋シ良好ナル職工長タラシメンニハ一度ハ現業ノ工場ニ入り學校ニ於テ未ダ知得シ能ハザル職工ノ境遇ヲ知悉シ併セテ工場ヲ管理シ職工ヲ統御スルノ道ヲ自然ニ覺知セシムルノ外亦他ニ便法ナキモノ、如シ是レ本校ニ於テ所謂現業練習ノ必要ナル所以ナリ歐米諸國ニ於テハ工場ノ數多ナル工業ノ進歩セル本邦ト日ヲ同フシテ論スヘキニ非ス而シテ技藝學校ノ設置亦多ク隨テ其ノ卒業生ノ多キヲ見ルモ別ニ現業練習ノ設ケアルヲ聞カスト雖ドモ其實此等卒業生ハ皆數年間現業練習ニ從事

現業練習ノ旨趣

スト云フモ敢テ不可ナキモノ、如シ蓋シ歐米諸國ノ工業ハ概テ學
理ニ通シ技藝ニ長スル者之ヲ管理スルヲ以テ卒業後未ク經驗ニ乏
シキモノニテ遽ニ相當ノ地位ヲ得ントスルハ極メテ難事ナリトス
故ニ佛國ノ如キハ數年間無給ニシテ工場ニ使役セラレ又英國ノ如
キモ五百圓許ノ金額ヲ工場主ニ出シ業務ヲ練習シ而シテ後他日相
當ノ地位ヲ得ントスルモノ少カラス要スルニ是等ハ皆所謂現業練
習ノ一種タリ既ニ技藝學校ノ生徒中實業家ノ子弟多ク又偶々其子
弟ニアラザルモ工場ノ數多ナル工業ノ發達セル等皆以テ實地工業
上ノ知識ヲ得ルニ於テ利便尤モ多キ歐米國ニ於テスラ尙且此ノ如
シ況ンヤ本邦ノ如ク日新工業上ノ知識ヲ有スルモノ乏キニ於テチ
ヤ是レ現業練習ヲ設クルノ止ムヘカラサル所以ナリ
現業練習ノ事ハ本學年ノ卒業生ヨリ之ヲ遵守スヘキノ義務ヲ有ス
ル者ナレバ此等現業ヲ練習セントスルモノニ對シテハ當校ニ於テ

成ルヘク諸工場ニ紹介シ其志望ヲ達セシメンコトヲ務ムヘシト雖
凡世間業務ノ數多ナル悉ク卒業生ガ他日從事セントスルノ業務ヲ
裨補セシムヘキ工場ニ紹介スルノ便ニ乏シカルヘク私立工場ノ如
キニ至テハ特ニ然リトス然レトモ現業練習ハ固ト卒業生ノ爲メニ
謀ルモノナレハ卒業生ニ於テモ學校ノ紹介ヲ待タズ自ラ進ンテ諸
工場ニ就キ現業練習ノ途ヲ得ンコトヲ務メザルヘカラス
願フニ工業ノ事タル學理ヲ應用スルノ必要ナルハ固ヨリ辯チ俟タ
スト雖モ單ニ學理ヲ知得スルモノハ往々空理空談ニ馳セ勞働ヲ嫌
厭スルノ傾向アルハ現今ノ通弊ナリトス曩ニ當校規則改正ノ際實
修ヲ嫌厭スルノ傾キアルモノハ退學ヲ命ストノ條項ヲ追加シ又卒
業生ハ一年以上現業練習ニ從事スヘシト爲シタルハ當校生徒ハ他
日工業界ニ出テ他ノ摸範トナリテ卒先能ク勞働ニ堪ヘ且進テ工業
ノ振興ヲ計圖スヘキ地位ヲ占ムヘキモノナレハ工業上ニ於ケル弊

風ヲ矯正スルモ亦實ニ其責務ナリト云フヘシ現業練習ノ要旨則チ
上述ノ如シ本校生徒タルモノハ能ク之ヲ服膺シ以テ本校ノ希望ス
ル所ニ副ハンコトヲ要ス

商議委員及職員(明治廿五年十一月末現在)

商議委員

- 工科大學長 古市公威
- 農商務省鑛山局長 和田維四郎

- 河瀬秀治
- 平岡照

職員

學校長 (米國出張中)

手島精一 千葉

學校長出張中代理

文部書記官 小山健三 埼玉

教授

フエロー、チフ、ケミカル、ソサイチー(ロンドン及ベルリン)
メンバー、チフ、セ、ソサイチー、チフ、チミカル、インダストリー(ロンドン)
染色法及配色法 染織工科長工學博士 高松豊吉 東京
染織工科實修

全

メカニカル、エンヂニール(スチーアプンス、インスチチュート、チフ、テクノロジ)
機械科實修 機械科長工學博士 山田要吉 徳島

全

製造用諸器械、發動機、
電氣學特別講義、機械科實修 理學士 阪田貞一 東京

全

無機化學、特別應用化學、電鑄
及電鍍法、分析 應用化學科實修 理學士 伊藤新六郎 東京

全

一般應用化學陶器玻璃工科實修 工學博士 高山甚太郎 東京

全

數學物理學 理學士 三守守 徳島

全

應用重學、發動機
機械科實修 工學士 中原淳藏 熊本

全

(歐州留學中) 工學士 細木松之介 兵庫

囑託教員手工授業法

川地方敬 東京
後藤牧太 東京

商議委員 職員

全	機械法及意匠論	工學士	大竹多氣	北海道
全	英語	文學士	牧瀬五一郎	佐賀
全	工場建築法	工學士	橫河民輔	東京
全	陶磁器玻璃等ノ製造法	理學士	植田豊橘	大坂
助教	機械科實修	機械科工場長	加瀬正太郎	東京
全	簿記	兼書記	波多野重太郎	岡山
全	圖畫、機械製圖、機械科實修		竹下富次郎	福島
全	體操	兼書記	渡邊賞	東京
全	分析		田寺信治	東京
全	工具用法、應用機械學 機械科實修		杉本源吾	福岡
全	染織工科實修		岡本金一郎	廣島
全	染織工科實修		柴田才一郎	長野
全	圖畫		平塚彌太郎	石川

技手	應用化學科實修	應用化學科工場長	池田久米	東京
全	機械科實修		青山重遠	東京
全	陶器玻璃工科實修	陶器玻璃工科工場長	海福悠	福井
全	機械科實修		壺河秀親	東京
全	染織工科實修		高力直寛	山形
雇	機械科實修		小島吉五郎	東京
全	機械科實修		吉留源助	東京
全	機械科實修		喜多武英	東京
助手囑託	陶器玻璃工科實修		藤江永孝	石川
助手	陶器玻璃工科實修		岡本親	高知
書記	會計主務官	助教	波多野重太郎	岡山
全	庶務掛	助教	渡邊賞	東京

全 庶務掛
 全 會計掛兼庶務掛
 全 會計掛
 書記見習 庶務掛兼會計掛
 雇 會計掛
 全 會計掛兼庶務掛

二見一策 東京
 脇坂新作 岐阜
 大越要次郎 東京
 岡部正樹 福岡
 石戸頼一 岡山
 坂野素直 福井

生徒卒業生

生徒姓名

化學工藝部

染織工科

第三年

金子竹太郎 上野

野島信貫 土佐

武久寅次郎 武藏

都澤正章 陸中

新井鏡太郎 上野

第二年

葛西東二郎 陸前

更田信彌 近江

渡利勉 丹後

山田三郎 岩代

神澤譽三郎 甲斐

藤田恒次郎 備後

登坂秀典 羽前

石坂正衛 播磨

鹽原鈞 信濃

齋藤俊吉 美作

高田吉親 羽前

第一年

竹村得太郎 近江

真木鐸吉 磐城

森田儀一郎 越後

野田忠藏 上野

伏見新之助 陸前

深瀬毅四郎 渡島

松本雄吉 上野

牧田虎次郎 信濃

片岡元彌 羽前

大原養浩 越後

葛原治三郎 陸奥

陶器玻璃工科

第三年

生徒

橋本新一 近江
安東龜太郎 筑前
梅田音五郎 筑前
真耶理三郎 尾張

第二年

早崎七二 薩摩
伊關善八 岩代
武藤三枝 岩代

第一年

內藤道太郎 駿河
林田千代太 肥前
池田貞吉 武藏
吉井友志 薩摩
中野鉄治 羽前
中村乙吉郎 志摩
星川清成 羽前
築瀬眞壽 岩代
中村長 伊賀
園山朔朗 出雲

應用化學科

第三年

平松武 磐城
早川繁雄 美濃
田上宗次郎 周防
長谷川鏡一郎 出雲

第二年

柳澤與次 信濃
中澤政太 信濃
久松源次郎 常陸
沼田正彦 尾張
山岸平藏 信濃
原田又三郎 周防
德永長一郎 肥前
濱田千代太郎 土佐

第一年

帷子録郎 陸中
石井幸助 讚岐
牛嶋金吾 美濃
中村政五郎 羽前
田中半治 尾張
嘉儀金一郎 出雲
土居川佐一 安藝
久須美竹治 越後
富田榮三郎 伯耆

機械工藝部

機械科

第三年

高橋貞吉 羽前
藤川勝丸 遠江
磯爲彦 筑前
內林嘉四郎 豊後
林一男 淡路
大塚和吉 伊勢

栗田金太郎	肥前	浦 謹 爾	長門	船田金太郎	武藏
辻 彌一郎	備中	鈴木 實	上野	川井滿太郎	肥前
飯田治彦	信濃	西橋彌壽雄	因幡	小鹿鶴彦	尾張
大石鑣吉	丹後	高田直屹	筑前	大野部一郎	播磨
三枝基太郎	豊前	石丸政太郎	周防	岡崎政一	加賀
笹部龍次郎	阿波	磯谷森之助	丹波	上田初市	豊前
鈴木鈴馬	羽前	水野忠真	美濃	廣木八郎	肥前
岩本熊雄	備前	中村 茂	武藏	藤山横人	長門
上田貫之助	豊前	十時 元	筑後	小出鋼藏	下野
德田雲三	武藏	鶴崎常雄	筑前	寺西 直	阿波
竹山新吾	薩摩	萩原治太郎	豊前	市岡隼二	長門
岡本猛彦	土佐	山田鑑雄	伊勢	井村齋六	伊勢

第二年

岩永秀三郎	肥前	岡田音次郎	近江	竹尾年助	三河
村田芳五郎	阿波	船水武五郎	陸奥	佐藤三郎	越後
垂 水 清	豊前	森戸政治	肥前	里内常太郎	肥後
木下勇茂	肥前	荻野徳次郎	越中	林 忠 夫	美濃
加藤貞雄	越前	大我好身	肥前	海老定徳	相模
岡本彦馬	土佐	杉谷四郎	武藏	由 布 高	筑後
前田雄次郎	羽前	上林五助	周防	大串爲太郎	肥前
石橋五郎乙	駿河	野村亭作	筑後	村上兵太郎	丹後
岡 四 郎	岩代	橋本卯太郎	備中	久米恒一郎	肥前
渡邊豊二郎	羽後	高津竹三郎	羽前	大童安一	肥後
小出錠雄	伊豆	武藤孫一	豊後	安達傳次郎	武藏
高松茂之	土佐	間 雄 次	肥前	藤野珧三郎	近江
伊藤 實	讃岐	岡 台 治	陸前	中田龜二	越前

額田大助	羽前	草野益次	三河	高橋兵四郎	陸前
圓城寺清	武藏	飯笹小四郎	肥前	石内紀道	武藏
鳥田敬雄	肥前	森川龍喜代	羽前	金澤悦也	武藏

第一年

久保田順一	筑後	齋木虎吉	筑前	岩尾德太郎	伊豫
多田成政	肥後	庄野龜次郎	筑前	永井政成	伊豫
福田光儀	肥前	藤原林平	羽前	大谷資利	安藝
三浦梅之助	肥前	山田時太	豊後	古我忍四郎	肥前
廣田本一郎	下野	石川貞一	肥前	小野則藏	陸奥
山縣信義	長門	三好唯吉	伊豫	藤本次二	阿波
玉嶋誠造	安藝	赤星隆俊	肥後	佐久間方雄	播磨
村瀬直	武藏	中嶋半三郎	播磨	原惠一郎	阿波
津隈乙朗	越前	吉良丑乙	伊豫	安藤厚三郎	武藏

春信孝	肥前	笠城午三郎	丹波	田所元喜	土佐
橋本増次郎	三河	多々良信二	肥前	井口第一郎	加賀
江本泰二	長門	上月秀太郎	武藏	岡部秋助	長門
岩根友愛	信濃	池田善四郎	武藏	六角三郎	信濃
湯淺富二	阿波	中原久太郎	山城	蜂谷齋	備前
若麻績常信	信濃	田中道太郎	石見	阿部圭一	武藏
家中虎之助	和泉	田内榮	伊豫	漆戸起一	武藏
佐藤義制	羽前	谷江長	越前		

特別生

第二年

伊藤宜良	越前	尾形作吉	羽後	松政幾太郎	攝津
大橋熊藏	羽前	目々澤多利吉	陸前	小嶺幸之	琉球

第一年

杉浦倉次郎 尾張 足立泰治 丹波 堀居左五郎 近江
杉田 稔 河内

撰科生

染織工科	梅川徳次郎	山城	染織工科	後藤足吉	磐城
染織工科	平良松助	琉球	染織工科	五代儀嘉一郎	羽後
陶器玻璃工科	辻喜一	肥前	陶器玻璃工科	杉江吉郎	尾張
應用化學科	鈴木金藏	羽後	機械科	星野半次郎	上野
機械科	奥住抜吾	武蔵			

現業練習生

明治二十四年七月染織工科卒業

桐生森山工場 吉田 敬 羽前

機械科卒業

長崎三菱造船所 瀧田 彪 肥前 京都織物會社 尾崎隆三 備前

明治二十五年七月染織工科卒業

京都織物會社 船坂八郎 飛騨 京都西山染工場 笠原次郎作 羽前

機械科卒業

横須賀造船所 齊藤 孝 信濃 横須賀造船所 寺本直亮 下總

横須賀造船所 前田泰次郎 武蔵

特待生(明治廿五年九月)

染織工科第三年 野島信貫 土佐 染織工科第三年 金子竹太郎 上野

機械科第三年 高橋貞吉 羽前 機械科第三年 山田鑑雄 伊勢

特待生(明治廿五年九月)

應用化學科第三年 平松 武 磐城 陶器玻璃工科第三年 橋本新一 近江

應用化學科第二年 柳澤與次 信濃

卒業生姓名(姓名ノ上ニ×ヲ付シタルハ死亡ノモノヲ示ス)

滋賀麻絲紡績會社	山崎 讚	肥前	日本鐵道會社	岡部 達	紀伊
海軍造兵廠製藥科	村井季四郎	駿河	未定	望月 貢	甲斐
日本鐵道會社	三宅 叔藏	越前	逋信省	山崎久太郎	武藏
長崎縣尋常師範學校	梅村久磨作	武藏	東京瓦斯會社	黒田 隆平	信濃

明治二十一年七月卒業

染工科正科

京都府染物講習所	東保三五郎	豊後	御料局生野支廳附 尾大坂製煉所	小幡虎之助	信濃
横須賀鎮守府兵器部	安 松 榮	越後	天海織物會社	菅谷 元治	武藏
金澤工業學校	相川 規一	加賀	攝州製油會社	門田小三郎	備後
德島縣尋常中學校	林 才一郎	尾張			
未詳	廣井 鋼之助	紀伊	自營	石川 啓助	遠江
第五高等中學校	本田 估武	肥後	未詳	佐々木 阿三郎	伊豫

染工科速成科

製品科正科

海軍造兵廠

田中敬信 越前

製品科速成科

東京工業學校

岡本 親 土佐 自營

松井吉造 攝津

機械科正科

海軍省(英國出張中)	池山英二郎	尾張	栃木縣尋常師範學校	田中捨之丞	安藝
筑前大城炭坑	神尾金八	武藏	東京工業學校	葛西德一郎	陸奥
米國留學	相澤 綱吉	越後	東京工業學校	杉本源吾	筑後
未定	安 田 恒	武藏			

機械科速成科 鍛工仕上鍛工

未定	山木元明	土佐	長崎三菱造船所	三木正夫	播磨
御料局但馬支廳	井上久藏	因幡			

機械科速成科 製圖

神奈川縣廳 有岡甲三郎 武藏 大坂水道局 小林要次郎 和泉
 X 岩船 茂 渡島 三田機械製造所 立石丑五郎 豊後
 遞信省 横山正順 土佐

明治二十二年七月卒業

染工科正科

日本織物協會 山内英太郎 武藏 自營 河合忠次郎 山城
 濱松高等小學校 杉田清吉 武藏 未詳 上松銈太郎 武藏
 小石川製帽會社 勢家弘藏 越前 梁川尋常中學橋陰館 吉本 丕 加賀
 梁川尋常中學橋陰館 伊達道太郎 相模 自營 小泉榮次郎 武藏
 高知縣尋常師範學校 近藤寅之輔 尾張 自營 水田 五 駿河
 自營 久末武次郎 豊前
 農商務省商工局 藤江永孝 加賀 海軍造兵廠 小泉角五郎 信濃
 陶器玻璃工科正科

大坂川口セメント會社

眞野太郎 出雲

X 上野好二郎 武藏

製品科正科

東京電燈會社 得永文雄 越中 農商務省地質調査所 梶浦鎌次郎 因幡
 工科大学 小畑繁次郎 渡島 越後草倉鑛山 吉良孫三郎 大隅

機械科正科

岩手縣尋常師範學校 小松幸太郎 陸奥 農商務省特許局 石原卯八 遠江
 九州鐵道會社 上村行典 薩摩 中嶋機械工場 萩原直四郎 武藏
 八代日本セメント會社 齋間貞之丞 信濃 前橋紡績會社 渡邊龜之助 長門
 日本土木會社 大友刀藏 武藏 未定 田澤謹吾 武藏
 都賀濱麻布會社 中村陽次郎 武藏 X 生野銈一郎 駿河
 宮内省 河村久逸 土佐 海軍造兵廠 國藤廉太 武藏
 東京電燈會社 平善吉 武藏 佐世保鎮守府 野村果義二 越前
 未定 佐野多一郎 羽後 東京板紙會社 辻可省 越中

卒業生

未定	安藤仙之助	丹波	日本鐵道會社	石川銀次郎	羽前
	×若泉 鑑	武藏	日本石油會社	伊勢壺八郎	信濃
自營	松本貞太郎	駿河	第十六國立銀行	各務源次郎	美濃
三吉電氣工場	横地道三	相模	徴兵	堀江正三郎	常陸

染工科正科

京都染物講習所	笠原健一	越前	自營	楯 喜雄	加賀
自營	細井亮四郎	播磨	金澤工業學校	渡邊季吉	加賀
千住製絨所	波部謙吉	岐阜	自營	下山又次郎	上野
自營	吉田佐次郎	豊後	京都染物講習所	鈴木廉之助	越前
品川白煉瓦製造所	海老名龍四	三河	農商務省地質調査所	北村彌一郎	加賀
工科大学撰科修業	中坪壽助	信濃	名古屋商業學校	大原辰彦	尾張

陶器玻璃工科正科

京都ハリス理化學校 飛鳥井 孝太郎 加賀

製品科正科

未定	新井要之助	武藏	自營	上野長雄	羽前
----	-------	----	----	------	----

機械科正科

東京府尋常中學校	飯河三角	武藏	愛媛縣尋常師範學校	内山久太郎	駿河
海軍造兵廠	吉江小三郎	常陸	海軍造兵廠	中島正賢	武藏
御料局佐渡支廳	山内重馬	伊勢	鐵道廳	植田助次郎	攝津
徴兵	佐々木高吉	武藏	北海道炭礦鐵道會社	河合直吉	備後
未詳	瀧澤三治	伊勢	長崎三菱造船所	古賀吉太郎	豊前
東京府廳	岩崎虎夫	備前	長崎三菱造船所	若林貫一	豊後
横須賀鎮守府兵器部	二見鋼太郎	大和	農商務省特許局	内村達次郎	羽前
細谷製鐘場	林 茂吉	伊勢	茶山風鳴義塾	羽室庸之助	丹波
秋田小真木鑛山	大塚武三	肥後	未詳	高田和太郎	但馬

鐵道廳 岡野正雄 肥前 日本會密製造會社 橫塚郁三郎 岩代
米國留學 牧野義雄 武藏

陶器玻璃工科專攻科

明治廿二年七月卒業 藤江永孝 加賀

染工科撰科

自營 志田彦十郎 駿河 自營 多賀谷 伊勢松 上野

製品科撰科

未詳 黒田精太郎 讃岐

機械科撰科

自營 荻野治太郎 美濃

明治二十四年七月卒業

染織工科正科

長岡職業學校 林 精一 越後 未詳 新井宗治 上野

自營 有馬廣泰 筑後 桐生森山工場ニ於テ 吉田敬助 羽前
現業練習

陶器玻璃工科正科

東京工業學校 平野耕輔 武藏 名古屋松村陶器工場 西山八次郎 肥前

未定 市川豊治 羽後 願館セメント會社 小川八助 相模

日本會密製造會社 立野列助 長門 橫濱衛生試驗所 黒田政憲 筑前

自營 金森清之助 越前

應用化學正科

大坂商品陳列所 宇佐美 信 武藏 自營 岸 久重 筑前

未定 檜林英實 越中 東京砲兵工廠 津森四郎次郎 周防

廣嶋縣尋常中學校 山岡順六 武藏 未定 竹内大治 越後

自營 齋藤虎雄 越後

機械科正科

海軍造兵廠 松田萬太郎 肥前 佐世保鎮守府 大西陳吾 阿波

長崎三菱造船所ニ於テ現業練習	濱田 彪	肥前	農商務省米國出張	小西孝太郎	伊勢
志願兵	千葉平次郎	武藏	特許明審社	木戸 傳	信濃
徴兵	藤井龍藏	長門	鐵道廳	野村良一	美濃
海軍機關學校	關根嘉助	武藏	御料河大坂支廳	吉澤源作	越前
志願兵	遠藤榮次郎	攝津	三池紡績會社	黒田峰松	筑前
京都織物會社ニ於テ現業練習	尾崎隆三	備前	農商務省特許局	山口武彦	薩摩
富岡機械製造所	野俣寛治	越後	日本鐵道會社	大宮熊三郎	尾張
志願兵	猪川定七	越後	東京砲兵工廠	河村兎吉	周防
海軍水路部	宇都野朝二郎	駿河	三田機械製造所	加藤金作	駿河
志願兵	長谷川愼一郎	遠江	佐世保鎮守府	高村熊吉	加賀
未定	新井荒三	豊前	横須賀鎮守府	逸見金太郎	武藏
海軍水路部	飯島直二	越前	大坂造兵廠	西川福馬	土佐
自營	谷崎安太郎	加賀	日本鐵道會社	樋渡重衛門	陸前

石川縣尾小屋鑛山 竹内才摩 加賀 島田紡績會社 田中身喜 武藏

機械科撰科

自營 池上喜之助 薩摩

明治二十四年十一月卒業

染織工科撰科

未定 山本祐七 陸中

明治二十五年七月卒業

高知縣尋常中學校	安藝牛五郎	土佐	京都織物會社ニ於テ現業練習	船坂八郎	飛騨
京都西村染工場ニ於テ現業練習	笠原次郎作	羽前	自營	出口直吉	相模
志願兵	竹下直次郎	薩摩	自營	杉山安太郎	筑後
農商務省地質調査所	乾 親枝	土佐	未定	渡邊次郎吉	伊豆
北海道セメント會社	篠崎友三	下野			

陶器玻璃工科正科

卒業生

應用化學科正科

志願兵	後藤朝之助	美濃	日本舍密會社	吉村素義	長門
志願兵	佐藤勇太郎	遠江	未定	牟田彦藏	肥後
自警	關五郎松	越後	志願兵	野口義比	駿河

機械科正科

志願兵	小野喜惣治	陸前	印刷局	三井四一郎	信濃
三池炭山	杉原平太郎	筑前	志願兵	北山一太郎	筑前
小名木川綿布會社	永井米藏	丹後	志願兵	戸波季四郎	筑前
名古屋紡績會社	山本豊藏	大和	今津洞ヶ丸鐵山出張所	笹村萬藏	長門
未定	松原益二郎	備前	農商務省商工局	田中準藏	武藏
志願兵	高田千城	越前	新潟中野組鐵工場	片岡金太郎	備前
未定	中原力次郎	伯耆	日本鐵道會社	岡三藏	備前
志願兵	坂内孫六	岩代	農商務省商工局	伊佐山傳次郎	武藏

深川厚製鐵所

小池藤太郎

安房

東京紡績會社

村上彌一郎

筑後

志願兵

尾藤剛

但馬

未定

立花熙

筑後

未定

眞柳長力

陸前

小野濱造船所

益田熊太郎

羽前

尼ヶ崎紡績會社

橋本長二

尾張

横須賀造船所ニ於テ現業練習

寺木直亮

下總

岐阜普通學社

加藤敏治

美濃

未定

春山敏郎

武藏

特別生

京都府尋常師範學校

高木秀太郎

美濃

高知縣尋常師範學校

森澤菊吾

土佐

日本層繭紡績會社

吉川房夫

肥前

横須賀造船所ニ於テ現業練習

齋藤孝

信濃

志願兵

奥田早苗

土佐

小野濱造船所

横山武一

播磨

御料局生野支廳大坂製煉所

尾藤將

三河

未定

平澤平吉

信濃

志願兵

佐藤信壽

盤城

横須賀造船所ニ於テ現業練習

前田泰次郎

武藏

未定

増山千吉

丹後

愛知縣尋常師範學校

石黒友吉

尾張

長崎縣尋常師範學校

永松傳太郎

肥前

卒業生

未定

伊東午次郎

肥前

青森縣尋常師範學校

板東定治

阿波

陶器玻璃工科專攻科

薩摩燒及軟磁器研究

西山八次郎

肥前

明治二十五年十一月卒業

染織工科撰科

未定

渡邊幸次

阿波

生徒現數

本科

染織工科

二十七人

陶器玻璃工科

十七人

應用化學科

二十一人

機械科

百四十人

撰科

染織工科

四人

陶器玻璃工科

二人

應用化學科 一人
 特別生
 特別生 十八人
 現業練習生
 染織工科卒業 三人

合計

二百四十二人

機械科卒業

五人

卒業生員數

染織工科 五十九人
 陶器玻璃工科 二十三人
 應用化學科 二十八人
 機械科 百四十九人
 機械科特別生 六人
 合計 二百六十五人

內

正科 二百三十七人
 速成科 十四人
 撰科 六人
 專攻科 二人
 死亡 八人
 重出 二人
 實員 二百六十三人

生徒現數 卒業生員數

七十七

卒業生就業表 (明治廿五年十一月未調)

種別	工場		官吏	技手	自營	學校			社會
	官立	私立				專門	普通	技藝	
化學工藝部卒業	六	一六	三	一〇	二二	一	一〇	一四	一
同上百分比	五、五	一四、七	二、八	九、二	二〇、二	九、九	九、二	一二、八	九、九
機械工藝部卒業	二八	四七	一二	二	六	一二	三	三	一
同上百分比	一八、二	三〇、五	七、八	一、三	三、九	二、〇	二、〇	七、八	六、六

敷地及建物

本校ハ東京市淺草區御藏前片町二十九番地ニ位シ北端僅ニ南元町三十八番地ニ跨ル正面ハ西須賀橋通御藏前片町ノ市街ニ對シ南ハ鳥越川ヲ挾テ須賀町ニ隣ス北ハ大藏省米廩ニ境シ東ハ隅田川ヲ隔テ本所横網町ノ河岸ト相望ム構内後ロノ方中央ニ入堀アリテ隅田川ノ流ヲ

計	死	未詳	未定	兵役	現業練習	海外
一〇九	三	五	一一	四	三	
	二、八	四、六	一〇、一	三、七	二、八	
一五四	三	二	一五	一五	五	三
	二、〇	一、三	九、七	九、七	三、二	二、〇

卒業生就業表 敷地及建物

引ク地形南北ニ短ク東西ニ稍長シ其總面積七千四百八十五坪〇五勺ニシテ此ニ建設セル建物ノ總積ハ貳千貳百五十七坪三合三勺三才ナリトス(二階坪ヲ合算ス)之ヲ概別スレハ即チ左ノ如シ

總建坪現坪數

- 事務所 八拾坪
 - 教場 五百六拾貳坪貳合五勺
 - 化學工場 四百三拾四坪八合三勺三才
 - 機械工場 六百五拾六坪五合
 - 徒弟學校工場 百〇三坪
 - 倉庫 七拾貳坪
 - 雜建物 三百四拾八坪七合五勺
- 又其建物ノ築造ヲ區別スレハ木造千六百五拾九坪八合三勺三才土藏造七拾貳坪煉瓦造五百貳拾五坪五合ナリトス

明治二十五年十二月二十一日印刷
同 年 同 月 二十^四五 日 出 版

編纂兼發行者 東京工業學校

印刷所 東 陽 堂

東京日本橋區葺屋町六番地

印刷者 吾 妻 健 成

東京神田區通新石町三番地

終

